

1月号

あーち

arch-tsushin

通信

新年のご挨拶
「筆をもとう」の沼館さんに書いていただきました

今年もよろしくお過ごしください

「おもちのきもち」

作・絵：かがくい ひろし

出版社：講談社

発行日：2005年12月



主人公は、子どもたちが大好きなおもち。

おもちつきの日、頭をぺったんぺったんと叩かれて、めんぼうで伸ばされたり、プッチンとちぎられたり。あんこやきなこ、納豆につけられて、最後は人間に食べられてしまいます。

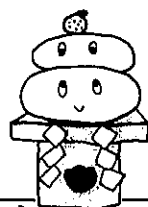
そんなおもちの気持ちを考えたことありますか？おもちにだって、実はいろいろ悩みがあるのです。

楽しくて、おもちがおいしい冬にぴったりの一冊です。

(十河)

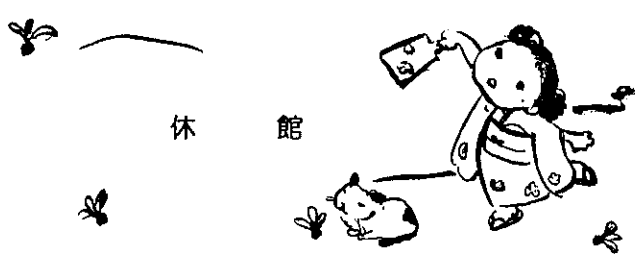
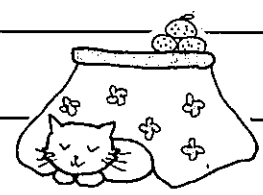
えんじえる君 by Bon





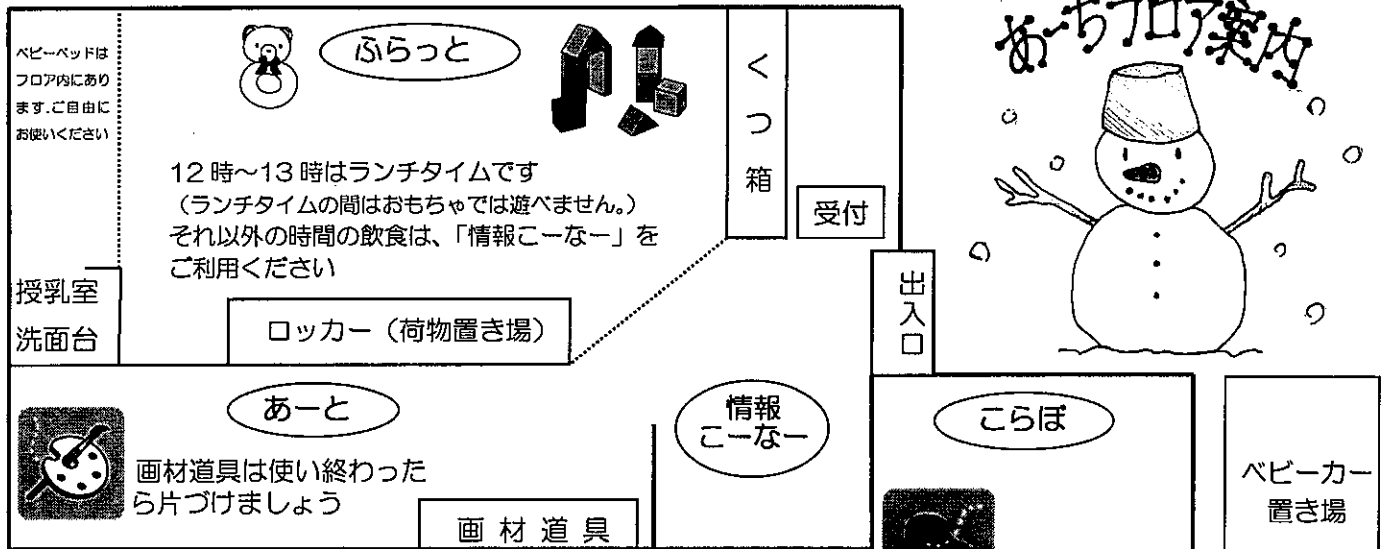
1月予定表



		こらぼあーち	あーとあーち	ふらっとあーち	
1	火				
2	水				
3	木				
4	金				
5	土				
6	日				
7	月				
8	火			おひさまひろばあーち（午前中）	
9	水	ほのぼの音ランド 11時20分～		おりがみあそび 2時30分～	
10	木	子ども家庭支援企画会議（午後）	筆をもとう 1時～2時30分		
11	金	居場所づくり 3時～6時			
12	土			人形劇 2時～3時	
13	日	休 館			
14	月				
15	火		あーち人形劇団「むー」企画会議 1時30分～	おひさまひろばあーち（午前中）	
16	水	あーち連絡協議会 3時～5時	あーち通信編集会議 1時30分～		
17	木		めだか親子クラブ 2時30分～		
18	金	親子わらべ歌あそび 11時20分～ 居場所づくり 3時～6時	アートセラピー 3時30分～5時		
19	土			紙芝居 11時～	
20	日	休 館			
21	月				
22	火			おひさまひろばあーち（午前中）	
23	水			おしゃべりほっとタイム 11時～	
24	木	子ども家庭支援企画会議（午後）	筆をもとう 1時～2時30分 あーち人形劇団「むー」企画会議 2時30分～	ベビーマッサージ（はいはい） 11時～	
25	金	おひさまスタジオ(予約制)午前中 居場所づくり 3時～6時／らくがきおばさんがやってきた 3時30分～			
26	土	おはなしの国 1時30分～2時 音楽の広場 2時30分～			
27	日	休 館			
28	月				
29	火			おひさまひろばあーち（午前中）	
30	水				
31	木	あーち♥ピギナース交流会（予約制） （6か月未満のお子さん） 1時30分～3時		ベビーマッサージ（ねんね） 11時～ 	

- ・太字のプログラムは今月の特別プログラムです。
- ・予約制以外の、どのプログラムも参加（見学）することができます。
- ・プログラム参加の年齢制限はありませんが、内容などの詳細は受付までお問合せください。
- ・「ベビーマッサージ」にご参加の方は、バスタオルを1枚お持ちください。
- ・「アートセラピー」「らくがきおばさんがやってきた」は汚れてもいい服装でご参加ください。





～お気軽にお声をかけてください～

<ふらっと相談員>

- 火曜 午前 保育士 助産師
午後 灘区地域活動支援コーディネーター
- 水曜 全日 元母子相談員
午前 臨床発達心理士 (不定期)
NPO 法人マザーズサポーター協会 (第4水)
- 木曜 午前 助産師 (月2回)
午後 歯科医師 (第1木)
- 金曜 全日 発達相談員
午後 灘区地域活動支援コーディネーター
- 土曜 午前 助産師 (第2土)

あーちのルール

- ☆オムツやゴミは必ず持ち帰りましょう
- ☆託児の機能はありません
- ☆就学前のお子さんが遊ぶときは、保護者の付添いが必要です

ねずみのあもう

大川悦生・作
梅田俊作・絵
ポプラ社

でんかし でんかし

まるまる ふとったねずみ
やせっぽちのねずみ

何度 あもうをとこもー

いいさまとばあさまが

ほったんこ ほったんこ

やせっぽちのねずみは おもちをうんとたべてー

2人の鬼とも くり返し 楽しい時を過ごせましたね。

我家



『ねずみのあもう』
原話は遠野地方(岩手県)中にあつめた昔話集

おみぞうし
『聴耳草紙』にたつた1つでている話

→表紙カバーより



子育て一歩二歩

第11回「右往左往」



まりまり

高知の冬は極端だ。

早朝は霜が降りるほど冷え込み、平地でも最低気温が0度を下回ることがある。

ところが日が昇ると一変、日差しが強い為か暖かい。一日の気温差は10度以上。

お昼前になると、よちよち歩きを卒業した子どもに付き添って散歩に出る。

散歩は育児の気分転換だけにとどまらない。

私にとっても子どもにとっても、散歩そのものが“心の温泉”。

大変ながらもようやく育児というものに“ゆとり”みたいなものが見え始めてきた。

と、思ったら。

二人目の妊娠が判明。

早速、夫に報告。喜びながら出産予定の時期を聞いて、どうしても仕事が休めない事を悔しそうに言う夫。

（改心したんじゃないのか。）

困った。

今回はゆっくり里帰り出産という訳にはいかないのだ。

数か月前から姉は病気の為に自宅で静養中。母は時折、近くに住む姉のもとに通っていた。

母方の祖父は大病を患い入院中。

ただでさえ忙しい実家。里帰り出産はおろか、出産前後に上の子を預けることも難しい。

母からはやんわりと、高知での出産を勧められた。

母も手一杯なのだ。まあ、無理もない。

上の子どもを産院に入院中どこで預かってもらうか、病院や施設などあちこちに聞いて回った。

なかなか思うようにいかない。

一方で、神経質な上の子が見知らぬところに預けられることを考えただけで、心が痛む。

夫の実家に状況の説明をしようにも、これまたなかなか難しい。

途方に暮れた。

気持ちが休まらない中で、ひっそりと大きくなっていくお腹の赤ちゃん。

上の子も現状に何となく感じているのか、事ある度にかんしゃくをおこし、なかなか泣き止まない。

こんな状況で、子どもやお腹の赤ちゃんは、愛されているという実感を持ってくれているのだろうか。

思わず、ママ友の前で愚痴と涙をこぼす。

状況が変わったのは、妊娠5か月目に入った頃。

祖父が入院先の病院で、亡くなったのだ。

亡くなってしばらくは忙しそうにしていた母だが、数か月すると里帰り出産しても良いことを伝えてきた。

何だか、里帰りできる安堵の気持ちと切ないのが半々だ。

そういえば、散歩の楽しみを教えたのは、祖父だった。

つづく。